

『リデザイン・ワーク 新しい働き方』

リンダ・グラットン 著／池村 千秋 訳
[東洋経済新報社、2022年10月、2,090円]



前作の『ライフ・シフト』で、人生100年時代の生き方においては、変化に対応し変身してゆく意思と能力が大切だと訴えた著者。今作では、パンデミックスこそがその大きな変化だと位置づけ、これをチャンスにして働き方のリデザインの方法を説いている。

心理学者のモデルによれば、平常時の組織は「凍結」状態にあり、組織の文化、慣行などは安定している。しかし、組織が外部から脅威が与えられると組織構造が流動化し、変化を遂げる「解凍」状態へと移行する。新型コロナのパンデミックの今、我々は、デジタルスキルと共に時間や場所にとらわれない柔軟な働き方への移行を遂げる「解凍」の好機が訪れていると、筆者は語る。

来るべき未来に向けた働き方のリデザインのプロセスを、著者は「理解する」⇒「構想する」⇒「検証する」⇒「創造する」の4段階のプロセスに分け、それぞれの取り組み方を詳しく分析する。そのとき大切なのは、ひとり一人の柔軟性と自立性である。とりわけリーダー自身の行動がリデザインの鍵を握るのだと言う。リーダーは、メンバーとの対話を大切にしたいメンターとして組織をゴールに導いていく必要があり、それにはリーダー自身が「未来に関するストーリー」を語り、人を動かすことが求められている。

働く意欲のある人を大切にできる職場にこそ人は集まり、そうした人を支えてくれる組織こそ、豊かな成果をあげられる。創造力を高める働き方を実践している組織にのみ、道は未来に続くのだ。この本を読み終えると、人生変革への旅を擬似体験することができる。未曾有の脅威をチャンスとして、一人一人が行動を起こし、望ましい人生へ旅立とう。
(執筆：協会職員 丸 弘之)

「人間の究極の幸せは、四つ。人に①愛されること、②ほめられること、③役に立つこと、④必要とされること。働くことで①以外は得られる」。これは、長年障害者雇用を進めた結果、社員のモチベーションが向上したある町工場の元社長の言葉だ。

この話を聞いて、昨年来私を覆っていた霧のようなものもやがて消えた。私は、最近東京都下の里山管理のボランティアを始めていた。下草刈り中心の地味で単調なイベント性のない活動の連続で、苦しさだけで正直あまり満足感のない私に比べ、10歳以上年上の先輩達の和気あいあいとした、生き生きとした姿。この差は何なのだろうかと思いついたのだ。きっとこの先輩たちは、皆でこの『幸せの四原則』を味わっていたのだろう。

立春の頃これに気付いた私は、このアルプス4月号が発行される頃には、諸先輩方と山桜が咲き誇る楽しい里山暮らしをしているだろう。人はこの四原則を知ると、生き方が少し変わるのかもしれない。(M)

共働きがスタンダードとなる中、夫婦で家計をどう分担し、管理していくかは大事なテーマです。今号のECONOMYの記事が、改めてご夫婦で家計について考える機会になれば幸いです。(R)

ご意見をお待ちしております。ご意見、ご質問、ご感想などをお寄せください。皆様の声を、積極的に活かしていきたいと考えております。

E-mail : alps2@lifeplan.or.jp

協会への交通案内

- 東京メトロ千代田線・日比谷線／霞ヶ関駅 C4 番出口より直結
- 東京メトロ丸の内線／霞ヶ関駅 B2 番出口より徒歩 3 分
- 東京メトロ銀座線／虎ノ門駅 9 番出口より徒歩 3 分
- 都営地下鉄三田線／内幸町駅 A7 番出口より徒歩 3 分

ALPS Vol.153 2023 年 4 月発行
発行 ● 一般財団法人地域社会ライフプラン協会
〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2 丁目 1 番 1 号
飯野ビルディング 11 階
TEL : 03-6550-8441 FAX : 03-6206-6401
ホームページ <https://www.lifeplan.or.jp>
E-mail alps2@lifeplan.or.jp
編集協力・印刷 ● 株式会社丸井工文社

本書からの無断複写・転載を禁じます。
本誌は再生紙を使用しています。

